

## 「英語話題と as の使い方 2」

今月は初めに、英語でもその国によって違いがあるので、イギリス英語とアメリカ英語での違いをスペルの差なども含めて例をリストして見ます。どちらも所謂、英語としては正しいです。相手がどちらかによって使い分けられることができるとスマートですね。

(用語の違い)	イギリス英語	アメリカ英語
一階	ground floor	first floor
二階	first floor	second floor
幼稚園	nursery	kindergarten
紙幣	note	bill
トイレ	toilet	bathroom
(スペルの違い)		
判決、判断など	judgement	judgment
色	colour	color
中心、センター	centre	center
認める	recognise	recognize
免除	licence	license
カタログ	catalogue	catalog
旅行者	traveller	traveler

## ALL と EVERY の違いと使い方

All も Every も全てを表す際に使いますが、その意味するところと使用方法が異なるので、解説を試みてみます。All は、全体をまとまりとして捉え、修飾する名詞は複数形となります。Every は、全体を個々の集まりとして捉え、修飾する名詞は単数形となります。従い可算名詞にだけ使用することになります。All は、全体をまとまりとして捉えるので不可算名詞に対して使用することがあります。

次の文は、両方とも「(世の中の) 全ての飛行機には羽根がついている。」との意味になります。

All planes have wings.

Every plane has wings.

但し、every の使い方として every 30 minutes などの「30分おきに」などは、30分毎の一つの時刻毎を表現するので、個々の集まりを表現することになります。また、all の使い方としては、その置き場所が比較的制限がなく使うことができ、その際のニュアンスが微妙に変わることになります。次にその例を書いてみます。

We get tired of his speech. 「私たちは、彼の話に飽きてる。」

All of us get tired of his speech. 「私たち全員は、彼の話に飽きてる。」

We all get tired of his speech. 「私たちは全員、彼の話に飽きてる。」

それでは、「その機械の全ての部品は、金属でできている。」を英語表現する場合はどちらを使うかは、その機械を構成している個々の全ての部品との内容となるので、次の英文になるかと思えます。

Every part of the machine is made of metal.

## 接続詞、代名詞 (関係代名詞)、前置詞、副詞の as について 2

前回の続きとして、前回は「同時性」「理由」「逆説」で使用する場合の as に付いて述べましたが、今回は「類似性」「役割」で使用する as とイディオムについての使用方法を書いてみます。

4. 類似性の as: "as + 形容詞/副詞 + as XX" で「XX と同じくらい〜だ」との比較を表、最初の as は副詞で後の as は、接続詞となります。

He's as tall as I [me]. 「彼は私と同じくらい背が高い。」(文法的には as I (am) だが目的格 me も使用される) この表現では慣用句としての比喩表現が多くあり、その例をあげると、as busy as a bee 「ハチの様に忙しい」、as clear as crystal 「水晶の様に澄んでいる/明白だ」、as cool as cucumber 「キュウリの様に冷静だ」などは、韻も踏んでいる表現です。as cold as a stone 「冷淡だ」、as cold as ice 「冷たい」、as easy as a pie 「簡単だ/朝飯前だ」、as hard as a stone (nails) 「堅い/冷酷だ」、as innocent as a dove (a lamb) 「無罪/無垢だ」、as keen as mustard 「批判的だ」、as pale as a ghost 「青白い/顔色が悪い」、as poor as a church mouse 「貧しい」、as proud

as Lucifer 「傲慢だ」、as pure as snow 「純粹だ」、as quick as lightning 「速い」、as quiet (silent) as the grave 「シーンとしている」、as slow as a snail 「ゆつくりだ」、as smooth as silk 「すべすべで滑らかだ」など色々な比喩表現があります。

同じ構造で良く使われる表現として、以下のものもあります。

as ~ as possible (one can) 「できるだけ~」

as ~ as any 「だれ(どれ)にも負けず劣らず」 She is as wise as any. 「彼女は誰よりも賢い。」

as ~ as ever 「以前に劣らず~」 He is as kind and obliging as ever. 「彼は相変わらず親切で世話好きだ。」

as far as ~ 「~する限り」 As far as I know, everything has settled itself satisfactorily. 「私の知る限り、万事思い通りに解決している。」

as long as ~ 「~する限り」 You can swim in the pool as long as I'm here. 「私がここにいる限り、泳げます。」

as far as は、知識、意見、視野の範囲で使われますが as long as は、条件、時間、期間の範囲で使われることが違いとなります。

5. 役割の as: 前置詞としての用法で「~として」と職業や役割、性質などを表す。

続く名詞が職業・役目・資格・性質などの抽象概念を意味する場合は無冠詞で使い、個人または個々のものを意味する場合は冠詞の a (an) をつけて使用します。

She worked in the medical team as nurse. 「彼女はその医療チームで看護師として働いた。」

This sentence was made as a good example. 「この文は良い例として作られた。」

6. 関係代名詞的な用法の as: as is そのままの状態 などやいくつかの慣用的な表現

I sell my old car as is. 「私の古い車を現状のまま売ります。」

as is を使う例も多くありますが、いくつか挙げると

as is always the case with ~ 「~には常にあることだが、~にはいつものことだが」

as is clear from ~ 「~から明らかな様に」

as is common in ~ 「~で見られるように」

as is common with ~ 「~の大半がそうであるように」

as is commonly known 「周知のように」

as is customary 「恒例により、常として」

as is evident (obvious) 「明らかなことだが、当然のことながら」

as is often said about ~ 「~についてよく言われるように」

等々さまざまな表現が使われます。例として一文を書いてみると、

As is always the case with success, the last efforts were the greatest. 「何かに成功する場合はいつもそうだが、追い込みの努力が一番大きかった。」

as は上記以外でも、

as for (to) ~については As for the issue, we'll discuss it tomorrow. 「その件については、明日話し合う予定」

as well as 「同様に、並びに」

such as 「次のような、等」

今回は、ここまでにします。